

森kichiスクール

2023年度

「森kichiスクール」にご興味をもっていただき、
ありがとうございます！

「やってみたい！と思うことから学べる場所を作りたい」
「子どもたちが自分らしく育ってほしい」
という想いが詰まったオルタナティブスクールです

「森kichiスクール」では、学校とは違った空間で
ようちえん児～中学生までの
異なる年齢の子どもたちが一緒に過ごします

子どもだけでなく、保護者もスタッフも一緒に育つ場所として
スクールに関わるみんなが幸せになることを目指します
自分の幸せを自分で選択できる場所があれば
次は「周りの人のために」という想いが生まれるものです

子どもたちの「やってみたい」を大切に
仲間と過ごすこと
自然に触れること
そして地域の人たちから生きることを学ぶ場を提供します

実施要項

<対象年齢> 3歳～15歳（年少～中学生）

<活動日時> 週2日（火・木曜日）

※祝日・年末年始はお休みです（夏休みは登校日あり）

9：45～10：00 登園時間（現地集合）

10：00 チェックイン、見回りさんぽ、各自やりたいことを決める
昼食（おにぎり）

13：30 集合：次回の予定と場所の確認

13：45～14：00 下校時間（現地解散）

<活動拠点> 当尾の郷会館（旧当尾小学校）

〒619-1131 京都府木津川市加茂町辻下垣外 16 番地

JR「加茂駅」よりバス 10 分、JR「木津駅」より車 20 分

※市坂の畑、鹿背山の森、調理室等での作業、活動の場合もあります

森kichiスクール子ども観

子どもは、その子が成長していく中で必要となる力や欲求をもともと持っています。
そして、それは自発的な遊びや仲間とのやりとりを通して、たくさんの失敗体験や
成功体験を繰り返す中で、必要なタイミングが来た時にグンと花開きます。
(大人が思う失敗・成功が必ずしも誰にでも当てはまるとは限らない！)
社会的なルールや、よりスムーズに過ごすための方法を伝えたり
提案したりすること、危険な時に介入するのは必要だけど、
基本的には、子ども同士で対応していく力を信じていきます。

<スタッフ> 森のようちえん部&初等部

上嶋 悠：幼稚園教諭、MFA（乳幼児救命救急）取得

熊澤裕子：MFA取得、木津川民生児童委員

NPO 法人こそだてママnet☆理事、森のようちえん部担当

中等部

芳沢 実依：公認心理師、幼稚園・小学校教諭免許

専門学校スクールカウンセラー

福井さなえ：NPO 法人こそだてママnet☆理事

リスクマネジメントマネージャー

<定員> 初等科(年少～小4) 5名

中等科(小5～中3) 7名(次年度15名予定)

<費用>体験 2,000円(2時間)

チケット制 10,000円(3回分+個別面談1回)有効期限2か月,家族での共用可

年間登録料 10,000円

月謝制 週2コース：毎月25,000円

視察 3,500円/1名

※体験は当日払い、入会後は20日迄に翌月のお支払をお願い致します。

※傷害保険は年間500円で加入可能です。

※上記価格は税別です。

※経費は別途徴収いたします。

<服装> 動きやすい服装・帽子(必要な場合)

<持ち物> ハンカチ・ティッシュ・飲み物・おにぎり・上靴

※名前の記入をお願いします。

活動で必要な持ち物についてはその都度連絡します。

【 2023年度 前期スケジュール 】

	火	木	火	木	火	木	火	木	火	木
5月						18	23			
6月	1	6								
7月	4		11							
8月			8					24		

青字…フィールド案内 赤字…プチスクール体験

お問い合わせ・体験申込 <kmamanet@gmail.com>

メールにて件名「森kichiスクールについて」とし、以下の内容をお知らせ下さい。

- 1 保護者名
- 2 お子様の氏名
- 3 お子様の年齢・学年
- 4 電話番号
- 5 お問い合わせ内容（お申込内容）

※体験希望の場合は、ご希望の日付をお知らせください。

※体験受付後は、必要書類を返信いただきまして完了となります。

※希望日の前の週にはお問い合わせをお願いいたします。

子どもの自発的な学びを尊重する場を目指しています。

人生の根っこは、遊びのなかで育まれます。

知りたい時が学び時。子どもの興味関心からスタートする学びを

大切にしたいと考えています。

自分色で生きる時間、お互いの凸凹を尊重できる場で

ありますように。

ここからは、スタッフで共有している想いです

《こども目線で》

■ 子どものやりたいことを大切にする

例え結果が見えていても、良くない方向に行きそうだと感じて、本人の意思を尊重します。小学生は、子どもだけの世界を作りたい時期でもあるので、もしそこに世界が出来あがっていたら、大人は介入せず見守りに。

■ 気持ちに寄り添うことをこころがける

話は最後まで聞くようにしよう。「でも…」「そうだけど…」とさえぎったりしない。どんな気持ちや考えかた・捉え方であっても、『あなたはそう思うのね、そう感じたのね』と認める。その上で、もし思うところがあれば『私だったらこうしてみる、こう思う』と伝えるのはOK。

■ 危ないことへの対応

見守る、危ないところを伝える、声かけをする、すぐにやめさせる、特例

『だめ』以外の言葉で伝えよう。どうしてほしいの？どう思ったの？

工夫すれば危険を回避できることであれば、どうすれば怪我しないで済むかを考えてもらう。

■ ケンカや人に対する強い口調や暴言には？

同じくらい力でやり合っている時は、危険なこと以外は見守っていきます。

もし一方的すぎる時や卑怯だと感じるような時は、基本的には立場の弱い方のフォローに入ります。「どうしたの？」と聞いてみて、話してくれたら聞きましょう。無理に言葉をかけなくてもOK。話を聞き終わったら、「どうしたい？」「何かできることある？」と聞く。

同時に大切なのは、立場が強かった方の子は、なんでそうしたのかを考えること。裏にある気持ちを考え、そこを満たしてあげる方法を考えよう。

■ ネガティブな態度、発言への対応は？

苦手なこと、初めてのこと、失敗や攻撃に対して敏感な子もいます。まずは、その気持ちを尊重して、無理強いしたり、気持ちを否定しないようにしましょう。安心感が満たされれば、自然と挑戦意欲は湧いてきます。もし、本当はしたいという気持ちがありそうなら、「やりたくなったら言ってね」「何か手伝う？」とちょっとサポートしてもいいかもしれませんが、決定は子どもにゆだねる。

毎回活動後の報告共有の他、年数回はスタッフで集まり、安全講習や、対応の仕方などで困ったこと、感じたことなどをシェアするようにしています。

子どもに伝えて行く以上、それを見守るスタッフも自分達の想いを大切にしていき、その姿を子どもに感じてほしいと思っています。

《保護者と共に》

保護者もスタッフも学んでいく場として考えています。子ども自身が持っている力を信じて時には見守りましょう。子どもが慣れないうちは、一緒に参加していただいても構いません。また、「こんなことがしたい、してみたい」という提案があれば、ぜひスタッフまで。

《スタッフ同士》

■ 感じたことは伝えあう

本音を言い合える関係性が必要。ただし、伝え方には工夫を。受けとり方にも工夫を。話したくないことは「話したくない」ということも必要。

⇒「私は〇〇と思った、感じた」 Iメッセージ

メールの時は特に、100%が伝えられていないこと・100%を読み取れていないことを念頭に置いておく。疑問があれば、直接確認の方が確実。また聞きも同じ。できるだけ、本人がいないところであれこれ話さないようにして（特に反対意見などは）聞く方も後日、本人から直接確認し直そう。

■ 困った時は頼り合う

子どもの体調、自分の都合などで何かできないことが出てきた時は、出来る人をお願いする。心身ともに負担がかかり過ぎないように、お互い様の気持ちを大切にしよう！

■ 無理なことは「No」という

自分や家族の誰かに負担が偏り過ぎることは避ける。家庭や子どもとのバランスを考えて、忙しい時は無理しない。

■ 提案大歓迎！！

どうせ無理…と思っても、一人で出来ないことがここでは可能になるかもしれません！提案はどんどんお願いします。思っていた形通りではなくても、どうしたら少しでも実現できるかをみんなで考えていこう。